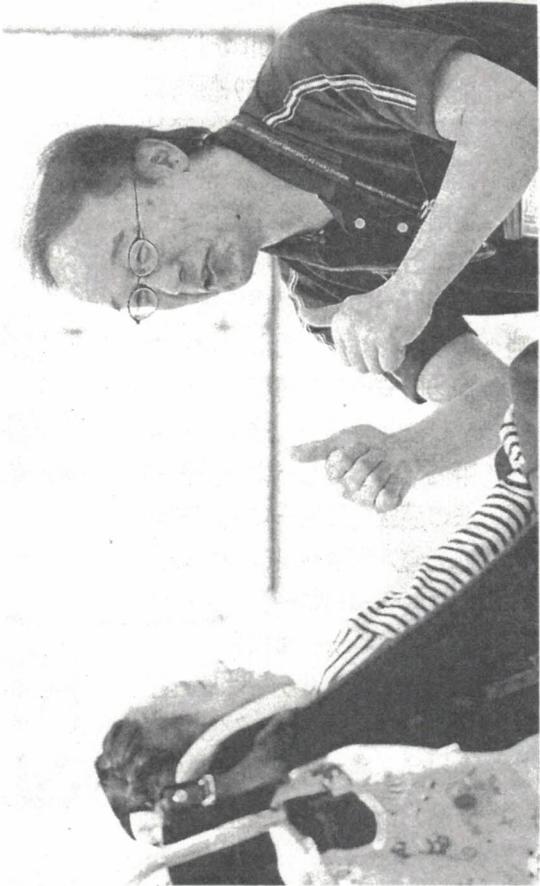


# 医療的ケア児の現状紹介

たんの吸引などが必要な医療的ケア児と家族のための医療型短期入所施設「もみじの家」(世田谷区)のハウスマネジヤード、元NHKアナウンサーの内多勝康さん(55)が「医療的ケア」の必要な子どもたちと第二の人生を歩む元NHKアナウンサーの奮闘記『ミネルヴァ書房』を出版した。関連法や病気の説明、家族や施設が抱える課題などを盛り込んだ「入門書」になっている。印税は施設に寄付される。

賀川智子

もみじの家は2016年4月、国立成育医立された。同書は医療研究センター(同区)的ケア児をめぐる現状が運営する国内初の公刊で、豊富な事例を元に



もみじの家で子どもと接する内多氏(世田谷区)

元NHKアナ 内多勝康さん

出版された「『医療的ケア』の必要な子どもたち」

## 印税は寄付



内多勝康

## 出版を記念する奮闘記

成長・発達や福祉」が紹介している。さまざまな子どもが医療的ケア児に対して登場する。心臓病を抱えた愛媛県の女兒は、医師から「寝たきりになる可能性がある」といことも指摘されている。実際、同様の施設で同年齢の子と交流するなかで歩けるようになり、公立小に通い、呼吸器と車椅子を使う13歳男子は「いつか自立し、母の負担を減らしたい」と、1人でも多くの家庭に泊したい」と、内多さんは「本を買夢だ。同書に紹介された多くの事例は、適切なケビンのように」など、子どもは医療の常識を超えて成長し、社会性や夢を育むことを示している。課題もある。児童福祉法で保障されている「全ての児童の2200円(税別)。問い合わせはもみじの家(03・5494・7135)。

## 出版を

医療的ケア児と家族のための「ゆりかごをめざして」

さまで回復した。全くどう不安定な運営が呼吸器と車椅子を使うある。同書は、医療施設に新たな支援モデルを構築することを提言している。

これまでに回復した。全くどう不安定な運営が呼吸器と車椅子を使うある。同書は、医療施設に新たな支援モデルを構築することを提言している。